

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 27 日現在

機関番号：32613

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23500700

研究課題名(和文)近世関東の村における剣術流派の普及に関する基礎的研究

研究課題名(英文)A Fundamental Study about the Spread of Kenjutsu Schools in the Rural Kanto Districts during Edo Era

研究代表者

数馬 広二 (KAZUMA, KOJI)

工学院大学・基礎・教養教育部門・教授

研究者番号：30204407

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円、(間接経費) 810,000円

研究成果の概要(和文)：この研究は、江戸時代を通して、関東(上野国(群馬県)、武蔵国(東京)、常陸国(茨城県)、安房国、下総国、上総国(ともに千葉県))の農村において剣術流派がどのように存在し、継承されたかを調査することで、農民の身体観を明らかにしようとする試みである。

特に剣道場の場所(上野国群馬郡金古村・小野派一刀流中澤清忠、上野国・馬庭念流の江戸道場)、門弟の援助(馬庭念流20世樋口定廣の例)、流派による奉納額(中沢清忠、樋口定廣の奉納額)を調査した。また、下野国の剣術流派の分布をみた。また武蔵国八王子犬目村の八王子千人同心家、斎藤家が所蔵した文書を整理し、2013年までに、4,600のリストを作成した。

研究成果の概要(英文)：This study is to investigate how the Kenjutsu (Japanese Fencing) schools had been maintained in the rural Kanto districts such as Kouzuke in Gunma prefecture, Awa, Kazusa in and Shimohusa in Chiba, Shimotsuke in Tochigi, and Musahi in Tokyo, throughout the Edo era. This study especially investigated locations of the Kenjutsu schools (dojo: of Nakazawa Kiyotada (1797-1878)), the master of Onoha-Ittoryu Kenjutsu school, the Higuchi family (Higuchi Masasada, Higuchi Sadataka, Higuchi Sadao, Higuchi Sadateru, Higuchi Sadakore, Higuchi Sadahiro, masters of Maniwa nen ryu) and Ichikawa Shirozaemon, assistance by the leading disciples, and wooden frames with their pupils' names dedicated by each Kenjutsu school to shrines, and locations of the shrines.

At the end of Edo era, the Saito Family in Inume was one of the Hachioji Sennin-Doshin and the village head of Inume. The collection of the Saito family contains old documents. Until 2013, we have made lists of 4700 items of the collection.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・身体教育学

 キーワード：農民剣術 馬庭念流 小野派一刀流 八王子千人同心 斎藤家文書目録 樋口定廣 市川四郎左衛門  
 太平真鏡流

## 1. 研究開始当初の背景

剣術流派は、15 世紀におこり、江戸時代に分派分流しながら継承され、幕末には 700 流派以上に達したといわれている。

剣術流派は江戸時代の城下町や江戸のみでなく、農村にも多く存在することが指摘されており(渡邊一郎『幕末関東剣術英名録の研究』) 私自身、千葉県においては不二心流、東京都では天然理心流、埼玉県の甲源一刀流、禅心無形流、群馬県の馬庭念流の調査をおこなってきた。これらの調査を通して、江戸時代の人口の 8 割を占めていたという農民階層の歴史を解明することで、近世における日本の身体文化を浮き彫りにすることができると考えてきた。一例として、明治に活躍した渋沢栄一(1840 - 1931)は、武州血洗島の農家に生まれ、地元で神道無念流剣術を修行し、江戸で北辰一刀流を学ぶなどする間に剣を交えた相手とのネットワークが広がった。

農民が、近代日本の草創期に受け継がれる身体文化の担い手としてなったとするならば、その点からも、農村武芸(とくに剣術流派)の存在の意義を継続検討する必要がある。日本における身体教育の歴史を解明する点からも必須の研究内容であると考え始めた研究である。

## 2. 研究の目的

江戸時代初期に関東に存在した剣術流派が、どこで発生し、どのような経路で伝播をし、上野国(群馬県)、常陸国(茨城県)、安房国、上総国(ともに千葉県)へ定着したか、中世に武士であった人々が江戸期にいかなる社会階層に組み込まれ、継承していったかを明らかにすることを試みる。日本社会

が、武芸流派という身体文化を介したネットワークによって支えられたことや、そのネットワークが渋沢栄一(神道無念流)などに代表される明治の政界や実業界の人々を支え育み、近代明治社会の基盤となっていたのではないかという仮説を検証する。

## 3. 研究の方法

本研究を達成するため、剣術流派の高弟家および宗家文書に所蔵される剣術関係文書を収集する段階「剣術免許」「起請文」「門弟帳」「書簡」などの分類 解読 市町村別に入門者の個人調査を行い、いつ(入門年月日) どの村(国・郡・村)の誰が(氏名・身分・職業・経済力・生没年)が入門したかの情報を蓄積する。

更に流派運営に関する書簡から、剣術流派経営に対する宗家の姿勢、他諸流派同士の勢力関係などを明らかにし、江戸とのつながりにおける関東農村における武術流派運営の実態を明らかにする。

## 4. 研究成果

本研究では、以下の調査結果を得た。

### (1) 小野派一刀流中澤清忠の調査

中澤清忠(1797-1875)は上野国群馬郡かねこ金古村の農家、中澤永吉の四男に生まれ、通称源蔵、諱を清忠といった。21 才の頃、上野国群馬郡あしかど足門村の農家の間庭家の養子となり、のちに剣術で立身したいと江戸へ出て、小野派一刀流中西子正に入門。このころ同門の千葉周作(のちに北辰一刀流の開祖)は3才上の兄弟子であった。中澤源蔵は免許を得た後、嘉永4年(1851)、信州松代藩の剣術師範となった。また自宅の隣に清隆館道場を建築し、小野派一刀流を指導し門人は約2,000人いた。本研究では、以下の調査を行った。

1) 間庭千恵子家(高崎市足門町)清隆館

道場の調査（4間半×3間。同時に三組の稽古ができる広さ。師範席は北側にある。）山岡鉄太郎（鉄舟）の遺墨（「清隆館」「摩利支尊天」）が現存。この道場の様子は、明治21年の『皇国武術英名録』（新井朝定著）に絵図で掲載されている。

2）中澤利行家（高崎市北原町）：小野派一刀流中澤清忠関係文書の調査を行った。

3）以下の三か所で神社へ門人姓名額を確認した。農村における小野派一刀流の剣術稽古がさかに行われた様子がわかった。

諏訪神社（高崎市金古町1351番地）  
妙見宮（高崎市引間） 足門八坂神社（高崎市足門）

## （2）馬庭念流の江戸道場について

上野国多胡郡馬庭村の農民・樋口家が代々、馬庭で馬庭念流剣術の道場を継承してきたが、13世樋口将定（1665～1751）が1700年代に江戸で道場を開き、以来18世樋口定伊（1807-1867）まで道場の場所を変えながら継承され、旗本の入門が相次いだ。江戸道場の推移（A～G）はつぎのとおり。

A 江戸赤坂道場：樋口将定が開く。堀部（中山）安兵衛が入門。

B 江戸京橋の太田屋敷に出張道場：14世樋口十郎兵衛定嵩（1703～1796）が天明二年（1782）に開いた。高弟・富岡権六郎、谷田部十右衛門に教授を任せた。

C お玉が池道場

D 小石川道場 樋口定張（定嵩弟）：

E 江戸小石川：16世樋口定雄（1765～1836）。定雄息子の十左衛門定保も指導にあたった。

F 神田明神下道場。

G 下谷和泉橋通り西側中程に道場。

また、18世樋口定伊（1807-1867）は、嘉永4年（1851）に神田明神へ、嘉永5年（1852）に浅草観音に馬庭念流の姓名額を奉納した。なお成果は、第44回日本武道学会（2

011年8月31日 於：国際武道大学）で発表した。

## （3）馬庭念流の明治期の活動について

1）樋口定廣が上野国に不在の時期に、馬庭村・松本周作、白石村・宮沢安八、東中里村・五十嵐勘兵衛らの高弟たちの結束により流派が継承された。たとえば樋口定廣が江戸から馬庭に帰った時期（明治17年・伊勢神宮奉納時に名簿による）の門人は1,900名以上おり、免許、高弟、目代、事理、目録、太刀組目録の各免許段階の門人であった。

2）樋口定廣は神社などへ7回の奉納額活動なども行った。姓名額は以下に奉納された。

倉賀野神社（明治15年（1882）高崎市倉賀野）：倉賀野神社の奉納額活動では、矢留、剣術形、長刀形を披露した。額には1,000名以上の門人名が記されている。

伊勢皇太神宮（三重県伊勢市・明治17年（1884）伊勢神宮・御師の三日市太夫次郎と高弟・五十嵐勘兵衛が連絡をとり奉納が行なわれた書簡の撮影。

総社大神（前橋市総社町・明治18年（1885））

飯玉神社（高崎市吉井町馬庭・明治22年（1889））

高崎清水観音（高崎市石原・明治23年（1890））

辛科神社（高崎市吉井町上神保・明治年間 不明）

火雷若御子神社（高崎市東中里・明治33年）

本研究の成果は、第45回日本武道学会（2012年9月7日 於：東京農工大学）で発表した。

## （4）信濃国における馬庭念流

馬庭念流の門人で上野国甘楽郡羽沢村

(現：群馬県南牧村)に市川四郎左衛門がいる。四郎左衛門の先祖は、五郎兵衛真親(1571-1665)で、主家の武田信玄・勝頼父子が亡き後、徳川家康から士官の誘いがあったがこれを断り帰農した。そして家康からの「朱印状」を根拠にして上野国山中領砥沢村(現：南牧村)で砥石山の経営を行うとともに、信州佐久地方で新田開発(これは「五郎兵衛新田」といわれる)を行った。市川家には家康より拝領の槍「月影」と、以下の文書が所蔵されている。

馬庭念流太刀組目録(安政3年3月)

樋口定伊 市川四郎左衛門

日置流弓術目録 三巻

夢想巻(林崎流居合)元禄3年5月

神白民部左衛門 市川五郎兵衛

宝蔵院流文書(石山梶之助正郷 鶺殿)

宝蔵院流允可(石山梶之助 鶺殿)

天和3年：宇治弾右衛門丞 市川五郎兵衛

このように、中世は武士身分でありながら江戸時代は地域に土着し、剣術を修めた人たちがおり、彼らの存在が、農村での剣術流派の活動を後押ししたと考えられる。

## (5) 栃木県立文書館の調査

江戸時代の下野における剣術流派の分布について、栃木県立文書館の所蔵資料を調査した。

大関文書(無外真伝切紙)柴田豊久家文書(東軍真当流剣術・大雲流柔術・捕手棒術起請文214名・寛政6年4月~嘉永2年3月)武学館一件、嘉永5年「小池長門守殿 武術御見分一件」大沢徳三郎控)相楽家文書(新当流之根本)那須隆家文書(「自他問答」)狩野家(小野派一刀流関係文書慶長14年正月7日 高橋八蔵宛)高橋保三郎家、菊地小次郎家などを閲覧・撮影した。

このうち「嘉永5年「小池長門守殿 武術御見分一件」(大沢徳三郎控)には、日光で、小野派一刀流、鈴木派神道無念流、東軍真當流、天然理心流(松崎和多五郎門人三沼庄之助)居合術では、嶋田真流、林崎甚助流。棒術では、香取流、天然理心流、大雲流、一傳流。柔術では大雲流のそれぞれの形が披露され試合も行われた様子が記されている。八王子千人同心松崎和多五郎が日光火の番で滞在したおりに、日光での武術見分に参加した事実が判明した。

## (6) 幕末期、九州地方への剣術流派の伝播

江戸で流行した中西派一刀流の中西忠蔵子武から小野派一刀流の山鹿八郎左衛門(弘前津軽家)への「書簡」(九州大学所蔵)によると、竹刀(しない)での稽古方法の効果について記されている。九州歴史博物館では、吉田家文書、長沼文庫、秋月黒田家文書、三奈木黒田家文書、林田文書、宇土細川家文書、有馬家文書、伊熊家文書を閲覧。槍術関係の試合帳などを撮影した。

## (7) 八王子千人同心齋藤家における太平真鏡流の調査

武蔵国多摩郡犬目村(東京都八王子市犬目町)の齋藤家は、江戸幕府の防衛拠点として甲州街道八王子宿に配備された軍事組織「八王子千人同心(組頭)」の家格であった。元禄12年(1699)以来、江戸時代の終わりまで、約170年間、千人同心としての家格と土分を保つとともに多摩郡下犬目村名主を務めた。齋藤家には、以下の剣術関係文書が所蔵されている。八王子千人同心の存在は農村における剣術流派の隆盛につながったといえる。

『大平真鏡流剣術・心止記』(文化12年 1814)

『大平真鏡流柔術・初傳 治内巻』(文化14年 1816年)

『天然理心流襲名披露(倅和多五郎へ剣術指南方相讓候)』(戸吹村 松崎正作よりの書簡 年代無)

なお、八王子市犬目町の齋藤悟家文書のうち、近世文書の整理を行い2,300点に及ぶ目録を作成した(数馬広二『データ 齋藤家近世文書目録』未製本)。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

1. 長尾進、数馬広二・齋藤実「鹿島新當流剣術のわざをみる(剣道専門分科会シンポジウム)『武道学研究』46巻3号 pp.155-160(日本武道学会誌)(2014年3月)の編集 査読無
2. 数馬広二「明治期における馬庭念流の動向について」『武道学研究』45巻別冊 p58(日本武道学会誌)(2012) 査読無
3. 長尾進、数馬広二・齋藤実「あらためて、剣道具を考える」(剣道専門分科会シンポジウム)『武道学研究』45巻3号 pp.242-257(日本武道学会誌)

- (2013年3月)の編集 査読無
4. 数馬広二 「馬庭念流の江戸道場とその活動について」『武道学研究』44巻別冊 p14(日本武道学会誌)(2011) 査読無
  5. 長尾進、数馬広二・斎藤実「中学校武道必修化をむかえて、あらためて武道の礼法を学ぶ」(剣道専門分科会シンポジウム)『武道学研究』43巻2号 pp.75-86(日本武道学会誌)(2011年3月)の編集 査読無

〔学会発表〕(計2件)

1. 数馬広二 「明治期における馬庭念流の動向について」  
日本武道学会第45回大会(於 東京農工大学 2012年9月7日)
2. 数馬広二 「馬庭念流の江戸道場とその活動について」

〔図書〕(計1件)

1. 入江、長尾進、数馬広二ほか『絵図と写真に見る剣道文化史』(一般財団法人 全日本剣道連盟 p30, p61, p67, p70 2014年3月)

〔講演〕(計2件)

1. 数馬広二 剣道のおもしろさ～人と人とのふれあいの場として～シンポジウム『生きがいのある都市構築～スポーツを楽しんで生き生きと生活する～』首都大学東京シンポジウム『生きがいのある都市構築～スポーツを楽しんで生き生きと生活する～』2012.12.6
2. 数馬広二 「捨てる! 変わる!」日本臨床心理身体運動学会第14回大会 公開シンポジウム 北海道教育大学函館分校 2011.12.10

6. 研究組織(1名)

- (1)研究代表者: 数馬広二(KAZUMA KOJI)  
工学院大学・工学部・教養・基礎教育部  
門・教授 研究者番号: 30204407